

## ＜令和4年度実施計画（報告）＞

番号	取組	取組の説明	期待できる効果	評価指標	評価	分析・課題
1	外部探究コーディネーターの設定	校内探究コーディネーターと連携して「総合的な探究の時間」の企画・運営を行う。	外部の教育力をより効果的に活用できるようになる。	外部探究コーディネーターを設定する。	C	学校運営協議会委員と外部探究コーディネーターの役割が重複したため、活用が困難であった。
2	学校運営協議会との連携	各分野の有識者からのアドバイスを受け、グローバル・ハイスクールの方向性を定める。	教員以外の人々の考え方や物の見方、進め方を取り入れることができる。	協議会を4回程度開催する。	A	協議会だけでなく「総合的な探究の時間」などで生徒たちに直接アドバイスをいただいた。
3	タイ王国シリントン学校等との交流、訪問準備	オンラインでの交流を行うことと並行して、令和5年度のシリントン学校訪問の計画を立案する。	現代の世界の狭さを体感することができる。 訪問に向けて生徒の心の準備ができる。	交流を3回以上実施、訪問の案内文書が完成する。	B	コロナ禍のためシリントン学校訪問の目途が立たず。オンラインでの交流は実施できた
4	浜北国際交流協会との連携	コロナ禍における国際交流の在り方について可能性を探る。	国際交流の新しい考え方・取り組み方について気づくことができる。	協会との会合を1回以上持つ。	B	中国の高校との交流を提案していただいた。次年度は交流の実施を図る。
5	常葉大学との連携	令和3年度に試行した常葉大学との協働授業について、更に研究を推し進める。	本校における高大連携の在り方が構築できる。	年間を通して協働授業を実施する。	A	「総合的な探究の時間」において大学生と意見交換をすることによって内容を深めることができた。
6	地元自治体等との連携	地元自治体職員からアドバイスを受け、地域課題への取り組み方について検討を行う。	本校独自の地域貢献活動を模索するきっかけができる。	地元自治体職員等との会合を1回以上持つ。	A	区振興課から外部講師の派遣や地域貢献活動の紹介をいただき、実施することができた。
7	1部活1ボランティア活動	部活動単位で地域貢献活動を行う。	地域貢献活動の様々なかたちを生徒に示すことができる。	半数以上の部活動がボランティア活動に取り組む。	B	コロナ禍で実施できない部もあったが、7つの部が老人介護施設等での活動ができた。
8	地元幼稚園等との連携	1年生全員が幼児保育体験・地域交流活動（職業講話等）を行う。	地域の課題に気づくきっかけになることが期待できる。	保育体験実習等を1回以上行う。	A	12園の幼・保・こども園で保育体験実習をすることができた。
9	ネット依存対策プログラム	外部団体（青少年ネット教育アカデミー）の指導を受け、生徒個々が自らの生活について考える。	生徒個々が自らの生活を見つめ直すことで、必要な家庭学習の時間を確保することができるようになる。	プログラムを実施する。	A	分析結果を保護者とも共有することにより、家庭との協力関係を高めることができた。継続したい。
10	先進校視察	グローバル的な教育を推進している学校や探究活動が充実している先進校の視察を行う。	より効果的・効率的な運営について検討することができる。	先進校視察を3回以上行う。	A	探究課教員が4回視察することができた。

※評価 【実績値と初期値の差(伸びた幅)/目標値と初期値の差(伸ばす幅)】が80%以上はA、80～60%はB、60～40%はC、40～20%はD、20～0%はE、0%未満はF